

## 決 算 特 別 委 員 会 会 議 録

I 日 時 令 和 7 年 12 月 2 日 ( 火 )

午 後 1 時 1 分 開 会

午 後 1 時 11 分 閉 会

II 場 所 大 会 議 室

III 出 席 委 員

委 員 長	山 本 徹
副 委 員 長	瘡 師 富 士 夫
理 事	八 嶋 浩 久
〃	瀬 川 侑 希
〃	藤 井 大 輔
〃	川 上 浩
〃	庄 司 昌 弘
委 員	佐 藤 則 寿
〃	横 田 誠 二
〃	尾 山 謙 二 郎
〃	光 澤 智 樹
〃	大 井 陽 司
〃	嶋 川 武 秀
〃	寺 口 智 之
〃	鍋 嶋 慎 一 郎
〃	瀧 田 孝 吉
〃	立 村 好 司
〃	谷 村 一 成
〃	澤 崎 豊
〃	大 門 良 輔
〃	安 達 孝 彦
〃	針 山 健 史
〃	種 部 恭 子

〃	岡崎	信也
〃	亀山	彰
〃	川島	国
〃	山崎	宗良
〃	井加田	まり
〃	筱岡	貞郎
〃	火爪	弘子
〃	宮本	光明
〃	五十嵐	務
〃	中川	忠昭
〃	鹿熊	正一
〃	菅沢	裕明
〃	米原	蕃

#### IV 会議に付した事件

- 1 付託案件の審査について
- 2 その他

#### V 議事の経過概要

- 1 付託案件の審査について

委員長から、決算特別委員会審査報告書（案）の報告書本文の工業用水道事業の今後の課題に関する記載において、11月18日開催の決算特別委員会での意見を踏まえ、「また、遊休地の有効活用に関しても努める必要がある。」と一部修正したとの説明があり、異議なく了承された。

また、火爪委員から、議案第117号令和6年度富山県歳入歳出決算認定の件及び議案第120号令和6年度富山県工業用水道事業会計利益の処分及び決算認定の件について、反対の意見表明があった後、付託案件について採決が行われた。

議案第117号令和6年度富山県歳入歳出決算認定の件については、挙手多数により、原案のとおり認定すべきものと決した。

議案第120号令和6年度富山県工業用水道事業会計利益の処分及び決算認定の件については、挙手多数により、原案のとおり可決及び認定すべきものと決した。

議案第118号令和6年度富山県電気事業会計決算認定の件、議案第121号令和6年度富山県地域開発事業会計決算認定の件及び議案第122号令和6年度富山県病院事業会計決算認定の件については、異議なく、原案のとおり認定すべきものと決した。

議案第119号令和6年度富山県水道事業会計利益の処分及び決算認定の件並びに議案第123号令和6年度富山県流域下水道事業会計利益の処分及び決算認定の件については、異議なく、原案のとおり可決及び認定すべきものと決した。

なお、委員長から、①決算特別委員会審査報告書は定例会最終日に配付し、審査概要を報告する、②報告の文案については一任願いたいとの発言があった。

#### ( 発言 の 内 容 )

火爪委員　ただいま提案された令和6年度決算認定案件のうち、議案第117号令和6年度富山県歳入歳出決算認定の件と、議案第120号令和6年度富山県工業用水道事

業会計利益の処分及び決算認定の件、この2案の認定案件に反対をいたしますので、理由を簡単に述べます。詳しくは本会議で申し上げます。

さきの総括質疑の中でも述べましたが、まず今年度、最大の任務は能登半島地震からの復旧・復興と物価高から県民の暮らし・福祉などを守る事業だったと思います。様々な努力が行われて敬意を表しております。

ただ、総括質疑で申し上げましたように、震災関連予算では、特に生活再建支援や液状化対策について、繰越し、それから減額処理など不十分な点が散見されている。

それから物価高対策という点では、今日の本会議でもありましたが、国の経済対策に基づく交付金の具体化の域を必ずしも出ていないということで、この点で課題の多い決算になったと思っております。

もう一つ、不認定の理由は、予算審議の中で我が党が反対をしていた事業が、そのまま幾つか含まれているということでもあります。

新川こども施設のPFI事業の推進。こども施設の設置には反対しないけれども、県有財産の場で民間企業の利益を保証する。しかも15年間、経済情勢などの変動が予想される中で長期の丸投げにひとしい委託になる、モニタリングもなかなか難しいという点。

それから、マイナンバーカードの取得の義務化につながるような事業。

それから、富山市西町中央通りD地区の再開発事業補助金4,320万円。また、もうとっくに終わった、令和5年度に完成している総曲輪3丁目に対する190万円の補助金などです。純粋な民間事業とも言える高層マンションなどに2割近い補助金を投入するいわれはないということで、これまでも反対してまいりました。

最後は、利賀川ダム本体の着工に基づく膨大な39億円余り。当初、補正を合わせて投入され、土木費全体約800億円の5%にも上り、予算を圧迫する事態になっています。これまで申し上げてきたとおり、庄川の支流である利賀川のこの地域に巨大なダムを造っても、治水効果というのは僅かだということでもあります。

あわせて、これは一般会計ですけれども、工業用水道会計からは、この年、令和6年度は建設費負担金8,764万円が計上されていますが、工業用水はたくさん余っており、未利用水を抱えているわけで、支出のいわれはないということで、2案に対して不認定といたしますのでよろしくお願いいたします。

決算特別委員長 山 本 徹